

平成30年度 第1回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日 時】 平成30年7月5日（木） 13時00分～16時00分

【場 所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室

【出席委員】 全委員15名 出席委員12名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 柏木会計管理者 東総務部長
柚原市民福祉部長 大坪環境水道部長 泉原商工観光部長 青木基盤整備部長
清水教育委員会事務局長 坂場消防長 佐藤病院管理室長 古川参事兼畜産振興課長
中村林業振興課長 今村農業振興課長 洞口財政課長 （16名）

【事務局】 御手洗理事兼企画部長 柚原総合政策課長 土田係長 砂田主事 （4名）

【会 次 第】 1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長挨拶

4. 会長挨拶

5. 会長職務代理者の選出（飛騨市総合政策審議会設置条例第5条）

6. 協議事項

① 平成28・29年度主要施策の実施結果と課題について …… 別紙①

② 平成29年度地方創生関連交付金事業の効果検証について …… 別紙②

7. その他

今後のスケジュールについて …… 別紙③

8. 閉会

【議事内容】

1. 開会

司会【御手洗理事兼企画部長】

飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により、定足数に達しており審議会成立

2. 委嘱状交付

今年度の最初の審議会につき委員の交代があるため、新しく就任された皆様に市長より委嘱状を交付。

3. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第1回目の総合政策審議会となる。他の市町村には最上位の審議会というものがあるが、当市には無かったことから昨年度新たに新設した。この審議会の特徴は、全ての政策分野の方にお集まりいただいているということ。それぞれの分野の審議会はあるが、分野を超えて総合的に全ての見地から検討ができるという意味において、大変貴重な審議会と位置付けている。他のご意見を聞いていただく中で、違った立場からのご意見をいただければ。市は秋から平成31年度に向けた政策協議を開始

する。今日の議論を反映させたい。平成 30 年度予算にもこの審議会の議論を踏まえ事業化したものもある。活発なご議論をお願いしたい。

4. 会長挨拶【高木会長】

5 月に 1 週間程、大学教授が市長インターンをするという形で、都竹市長の下で色んな政策の場に随行した。私の教育の場面に活かしていきたい。昨日、名古屋でこの取り組みの話をさせていただいたところ非常に好評をいただいた。色んな意味で飛騨市に協力していきたい。先般、ふるさと種蔵村が開村し副村長を拝命した。今日は皆さまから忌憚りの無い意見を伺い、一緒に良い飛騨市にしていければ。

5. 会長職務代理者の選出【御手洗理事兼企画部長】

昨年度、会長職務代理者を務められた委員が交代されたため、会長職務代理者の選出を行う。飛騨市総合政策審議会設置条例第 5 条の規定により、会長の氏名する委員がその職務を代理することとされている。高木会長より事前に委員 A を指名する旨のご意見をいただいております、ご異議はないか。

【委員】

異議なし

【御手洗理事兼企画部長】

ご異議なしとのことで、委員 A に会長職務代理者をお願いする。

6. 協議事項

司会【高木会長】

① 平成 28・29 年度主要施策の実施結果と課題について《別紙①》

【土田係長より説明】

【委員】3 ページ目の就職情報の発信について。冊子を見させてもらおうと若い人に対して目を引かれるものであった。ここに記載されているアンケートは実施済みか。

【土田係長】既に実施済み。分析が終わったところで報告をさせていただく。

【委員】昨年 12 月から市街地の Wi-Fi 無料化の試験等が行われている。今年度も予算があがっているが、どのようなになっているか。

【土田係長】設置完了は 8 月頃を予定しているが、詳細を確認して後ほど報告する。

② 平成 29 年度地方創生関連交付金事業の効果検証について《別紙②》

【土田係長より説明】

【委員】飛騨地域の特区通訳案内士は、観光案内所に常駐し市街地を案内するものなのか。

【土田係長】海外の方はネットにより情報収集されることから、ホームページで周知を図った上で別にアポを取っていただく。

【委員】飛騨市ではどうなのか。

【土田係長】飛騨市でも同様である。今年度ガイド団体の設立に向けて動いており、委員が言われる

ように観光案内所に常駐しその場で受けて案内をすることも考えていかなければならない。

【委員】費用は？

【土田係長】通訳案内士によって違うと聞いている。

【委員】飛騨市は何人通訳案内士がいるのか。

【土田係長】確認し後ほど報告する。

【委員】この案内士は飛騨地域全体を案内するということか。

【土田係長】各市をそれぞれ担当するのではなく、全域である。

【委員】移住・定住事業では仕事に特化した取り組みとのことだが、こういった職種なのか。飛騨市に移住された人数や問い合わせ件数は。

【土田係長】移住というと起業と捉えられるが、中には移住しサラリーマンとして働かれることから、そういった仕事も含めたPRを考えている。移住者数の平成29年度の実績は、飛騨地域全体で430名。内訳は、高山市293名、飛騨市97名、下呂市36名、白川村4名である。

【委員】97名の移住者の就職先は。

【土田係長】そこまでは確認できていない。

【高木会長】居住地が飛騨市ということ。

【泉原部長】先ほどの通訳案内士の人数についてだが、英語の通訳案内士2名、中国語は0名である。

【高木会長】養成講座は継続して実施するのか。

【土田係長】毎年、英語と中国語の通訳案内士を交互に養成しており、昨年度は中国語の通訳案内士を養成した。

【委員】まちなかの案内所に常駐している方は通訳案内士ではないのか。

【土田係長】通訳案内士とは別で、市が直接雇用している専門支援職員。

【都竹市長】この通訳案内士は自分で金を取ってよく、それを特区で認めている。ボランティアではない。

【委員】養成講座は何人受けたのか。

【土田係長】昨年度は、中国語の講座に27名参加され、修了者は12名。

【委員】その12名の方々の活動は、飛騨地域の事務所から派遣という形になるのか。

【土田係長】個人で行うもの。

【委員】移住について、今年度から色々なテーマで「市長のふれあいトーク」を実施されているが、移住をされた方との対談があるとよい。例えば、古川・河合などの地域別。地域もその方や苦勞していることを知ることができ、次の移住者に繋がるのでは。

【都竹市長】大変良いアイデア。また企画する。

【委員】この事業は、飛騨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中から企画検討し出された事業なのか。

【土田係長】そのとおり。

【委員】この事業についてはどのように協議をされているのか。

- 【土田係長】飛驒地域三市一村の広域で行う事業は、その三市一村で構成する「飛驒地域創生連携会議」において精査しており、飛驒市単独の事業は、毎年事業を精査して内容を修正し、その都度国の許可を得て事業を実施している。
- 【委員】移住・定住事業について、飛驒市単独では住むとコネット等実施しているが、広域事業が終了した場合、飛驒市単独でもっと打ち出すべきだと思うがいかがか。
- 【土田係長】飛驒市だけのブランド力では難しい。飛驒地域三市一村で飛驒というブランドを力に平成31年度以降も取り組んでいく。
- 【都竹市長】補足する。受け手の対策も必要で、これまでも色んな補助の仕組みも整備したが、一番は移住コンシェルジュのように親身になってお世話する人が必要。このことから今年、移住コンシェルジュを3人雇用している。最初は、市役所に常駐を検討したが、携帯電話を持っていた上で在宅勤務し、問い合わせがあった時に対応してもらうようにした。その方が柔軟性があり親身に対応できると考え、今年の柱にした。
- 【委員】市の職員の場合は2・3年で異動がありロスになる。最低でも5年くらいの長いスパンで考える必要がある。
- 【高木会長】ノウハウの引継ぎが上手にできるとよい。
- 【都竹市長】今回は最初2人の予定だったが3人になった。あの人なら動いてもらえるのではとのことで推薦があった。
- 【委員】以前も飛驒市は失敗している。長いスパンで異動せずにやっていただきたい。
- 【柚原課長】先ほどのWi-Fi環境の整備について、報告させていただく。今現在は6箇所ということで、飛驒市役所前、まつり広場、大横町、いたばし生花店前、田近百貨店前がエリアになっており、観光の動線として上手側に人を動かしたいとの考えから、真宗寺から大横丁あたり一帯をエリアとして今回増設する考えである。
- 【委員】まつり会館から下手側はないということか。
- 【柚原課長】今年度については整備範囲に入っていない。
- 【委員】式之町筋は農泊等も今後考えられることから、先行して通信インフラの整備をしていただきたい。
- 【柚原課長】検討する。

— 休憩 —

- 【高木会長】会議を再開する。委員の皆様からご意見を頂戴する。近年の飛驒市において良くなったこと、悪くなったこと、変えてほしいこと、あったらいいサービスなど、どんなことでも結構ですのご意見をいただきたい。
- 【委員A】一番心配していることはJAの店舗閉鎖によるガソリンスタンド等の問題。まちなか観光案内所は非常に良いと思っている。もうひとつ、ふれあい広場にキャンプで名古屋グ

ランパスエイトが来ているが、人工芝を使いたいというアマのチームが多くいる。今のところ予約でいっぱいに入れない。もう1面あると夏だけでも合宿客が追加で3,000人ほど呼べるのではないかな。

有名選手との触れ合いで子どもに夢を持たせるという事業があるが、子どもが興味を持ったとしても、指導できる大人が少ない。サッカー指導者などの資格を取得するにもお金がかかる。そういう方達への支援をすることで、新たな指導者が育ち、子どもに指導できるようになる。

最後に、産業的なことでいうと山中和紙や和ろうそく、提灯など点の活動ではなく線でつなげていけば飛騨市としての産業につながるのではと思う。

【委員 B】医療専門職のUIターンの支援が拡充された。多くの方に周知する方法を模索しながら、医療・介護職の拡充が出来ればいいと思う。

地方での医師確保が困難になっている現状がある。飛騨地区はいうまでもなく、他の地方都市でも若い医師の確保が難しくなっている。医療の拡充ではなく、いかに今の医療を維持していくかが論点になる。飛騨市の医療・介護の維持向上について、いい提案があればその都度させていただきたい。

岐阜県学校保健会の研究大会が10月に飛騨市で開催される。ぜひ市長直々に飛騨市のPRをお願いしたい。その時に観光施設を無料にさせていただくなど、楽しんでいただけるようお願いしたい。観光パンフレットを取り揃えたり、催し物があればぜひ情報提供させていただきたい。発表内容は、食物アレルギーをテーマとする。またアトラクションで河合の子ども地歌舞伎を披露する予定。

最後に、高野の千本桜夢公園の整備が行われている。山桜は咲いている期間が長く、良いところに目をつけられたと思う。地域住民発案の事業と聞いているので、ぜひ今後も支援をしてほしい。

【委員 C】飛騨市は変わったと体感している。元気、活気が出ていて、それを地域住民として感じている。みんなが生き生きしている。それは、市長が変わられたこともあるが、ダイレクトに市役所をはじめ、いろんな分野とやり取りができるようになったことが大きい。自分たちも一緒にまちづくりをしている感覚がある。

介護の分野では介護人材が不足している。人材の掘り起こしでは、介護の資格が無い方の支え合いバンクはあるが、介護有資格者の人材バンクがあるとよい。潜在的に結構みえる。また、そういう相談ができるネットワークがあると良い。施設では、社会福祉士学科などを持っている大学の学生が施設実習を1ヵ月やらなければならないとされており、施設職員が大学等に施設実習誘致の営業に行っているが、色んな施設でそれぞれ誘致活動をやっていけば色んな大学との繋がりがもっとできるのでは。

介護が必要な方の災害時の福祉避難所という部分では、どういう方を避難させるかというところで、少しずつ台帳を作っていると聞いたが、どこかでシュミレーションをやりたいという話を聞いている。ぜひ話を進めてほしい。

【委員 D】先月発生した大阪北部地震だが、5名が犠牲になった。中でも塀が倒壊し亡くなった幼

い命に心を痛める。全国で塀の調査が行われ飛騨市でも数箇所あったと聞いている。災害により多くの被害者が出て、その後に法が制定されるという流れがあるが、今回は塀の安全基準が既に示されていたにも関わらず発生してしまい、大変残念に思う。今回は塀であったが、それ以外でも何か危険なものがあるのではないかと。公共施設の安全管理などが中心となると思うが、今一度、再調査・点検を行っていただきたい。

【委員 E】JA古川支店について、金融は継続されるが生活必需品販売の閉鎖がひとまず1年延びた。市からも営業継続の要望をしていただきたい。

外国人技能実習生の支援について、製造業の方々が大変喜んでいる。本来は、商工会が窓口でやれば良いが、なかなか難しいということで専門業者に依頼してやっているという現状。サポートしていきたい。

空き家・空き店舗対策について、皆さん元気があるけれども空き家があると元気が無くなる。空き家をなんとか活用できれば。事業承継できるとよいと思っているがなかなか浸透していない。力を入れてやっていきたい。観光客に対してWi-Fiがないと話にならないというのが事実。次年度を含めて頑張りたい。

【委員 F】JAのAコープの件だが、私からも何かできればと思っている。また情報共有できれば。古川祭についてだが、そもそも日本の祭は天災等どうにもならないことに神を崇めて祀ったのが始まり。だが、今の古川祭には農業者が関わっていない。私が子どもの頃と今を比べると、周辺部のほとんどは農道で道を整備したが、近年では住宅地を整備したため農道が農道として機能していない。農道で整備をした後に市道に格上げされるが、市道にしてしまうと私たちは何もいえない。実際に通勤の乗用車が自転車をはねたことがあった。すみ分けができてない。実際そこで農業をしようと思うと大変である。また、農家個数が急激に減っており、それをカバーするために営農組合を作ったが後継者がいない。観光面から見ても町中に残る農地が荒れるのは決して良くないと思うが、近いうちにそうなるだろうと思われる。町中や山裾に荒廃地が増えていることは確かであり、大変な状況であるということを理解していただきたい。

【委員 G】広葉樹のまちづくりはとても面白いのでぜひ進めていただきたい。人材不足の話が出ているが、森林業も課題である。県では森林技術者に特化した「森のジョブステーションぎふ」ができたので、市も連携してほしい。また、外国人労働者は国が法整備を行っているが、森林業に都合が悪い。県議会にも意見書提出のお願いをしており、市でも精査していただきたい。

来年度から、森林環境譲与税が飛騨市はおそらく2,300万円ほど入ると思われる。国は新しい森林管理システムの法整備を行っており、3月には制度設計がされると聞いているが、3月に制度設計され4月から事業を実施できるのかと心配している。また、森林組合は組合員のために森林整備をするのが基本原則であるが、全国で3割程の森林組合は赤字が続いている。今の森林環境譲与税では、経営を破棄する森林所有者に変わって市がやるということになっており、森林整備が多くなると森林組合は赤字になる。法整備できてからになるが、よく精査していただきたい。今後は全森連を通じて政策提言し

ていきたいと考えている。

サッカーの話が先ほど出たが、来年度、ぜひサッカー・ラグビーの事業を加えていただきたい。

市議会において、議会と行政は車の両輪。最近は地方自治法等に反した発言が多々ある。ぜひ再教育をするべきでは。

【委員 H】中学生の医療費をゼロにしなくてもよいので、ネットワークを広げて心のケアをしてほしい。虐待やネグレクト、貧困などの問題に対し、それを地域で見れない、探れないというのが残念。市でも色んな検討をされていると思うが、昔みたいに近所の方が守れる環境が薄くなっている。地域の方が見る環境づくりができるとよいし、お金はかからない。飛騨市の子どもたちはノリが良く、子ども達を支えている大人たちが楽しさを語り掛けられるかどうか。心を豊かにできるとよい。

小さなまちづくり応援事業は、市民の方が活気に溢れており良いと思うが、スタートは応援していただけるが、その後、継続する事業についてはどうか。自分の力で活気づいていけばいいと思うが。

先ほど言われた点と線をつなぐことについて、「〇〇が似合う飛騨市」ということを線でつなぐことができれば更に充実すると思う。

先日、子育てネットワーク部会が開催され、活動の情報発信が不得意であったり、どこに行けば情報を得られるのかがわかりにくいといった意見から、どこか子育て情報の受発信拠点を作るとよいのではという意見があったので述べさせていただく。

【委員 I】通学路に関して、古川町太江地域に大型車が通り危険であり、早期改良が必要だと思われる。また古川中学校前の道路の溝が深いため、水がとてもはねる。小学生がずぶ濡れになって帰るとよく聞いており、こちらも早期改良が必要と思う。また、町中から上気多に抜ける一本道がないため、細く狭い道を通る必要がある。一本道があると利便性が高いと思われる。

宮城町にある北陸電気工業の跡地についてだが、他県には広い緑地公園のような遊び場があるが飛騨市にはない。ロケーションも良い場所であり活用し整備したらどうか。

少子化について、対策をどうするかはもちろんであるが、どう向き合っていくかというところ。子どもが高校生になり飛騨市に戻ってきたくないと思っているのではないか。このことから、高校生のうちからイノベーション教育が必要ではないか。一般社団法人 i.club（アイクラブ）という団体があり、高校生のうちから地域に愛着を持ってもらうといった非常にいい取り組みをされている。飛騨市でも愛着を持ってもらい戻ってきてもらえるような取り組みが大事である。講演会等を開催するなどして、事業を推進したらどうか。

【委員 J】市で行われている利息の補助などの支援を使わせていただいている。高山市にも同じ制度があるが、高山市は利息の補助額を落としている。飛騨市では企業のためにもこのまま維持していただきたい。

移住・定住事業について、移住される方が住宅ローンを組むケースがあるが、住宅ロー

ンを申請した場合、移住者は勤続年数が0年であり、更に保証人もいないという状況で、審査が通りにくい。例えば、移住される方が住宅ローンを組まれる際に、ある一定の保証を市が付けることができれば、金融機関としても組みやすくなる。

古川に来て驚いたことは、みなさん鮎をたくさん食べる習慣がある。例えばヤナに行くと5匹など。ヤナの方と話をすると後継者がいないとのこと。なんとか残していく方法を市でも協力いただければと思う。

【委員 K】平日に災害が起きた場合、独居老人や高齢者世帯を守るという人がいない。例えば、事業所が近くの市民を助けられる仕組みがあれば。また、事業所の中で災害が起きた際に避難等の対応が徹底されているのか。

昨日、高山市役所のサーバーがダウンした。無線も聞こえない場合もあり、ネット等を活用した情報伝達の整備が必要。

今年から、ひとり親家庭支援が充実されていると感じた。そういった中で、先日、新聞で若年ケアラーという問題を目にした。ひとり親家庭では、親が身体を壊すと子どもが介護しなければならないという状況が出ていると聞いている。ダブルケアの問題もあまりないと聞いているが、そういったところにも目を向けていかなければならないと感じている。

【都竹市長】ありがとうございます。休憩前もそうだが、分野を超えてご意見いただいた。まさしくそれが総合政策審議会の意義。良い形でご意見をいただいた。

委員AからいただいたJAの件だが、特に山之村のガソリンスタンドが大きなテーマ。

JAと地元も話が進みつつあり、なんとか形にできるような見通しである。古川のAコープの件は、ここでは詳しく申し上げられないが具体的な調整をしている。JAとしてのお考えもあり、空き店舗でもなく、かといって誰でも自由に使える施設でもない部分をクリアしながら意見交換し、まとめていきたい。

ふれあい広場の件については、現在、スポーツ施設整備計画をまとめる中で、優先順位付けをしており、財源は合併基金12億円を充てる前提。7～10年かけて順次整備する予定で計画を立てるところ。検討する委員を選定し第1回目の委員会を近々開く予定。市民要望が多い施設や観光の要素が強い施設など、どこを優先するべきかという議論の段階にあり、スポーツ施設の整備は来年度の政策の柱になる。サッカー指導者は良い提案をいただいたので早速検討する。

委員Bの医師の確保についてだが、飛騨市の中でもそれぞれ事情が違う。高原郷は市民病院を中心にどう確保するかだが、古川の場合はクリニックの医師をどう確保するのかという違う問題がある。新しいことができないか検討しており、引き続き大事なテーマとして考えていく。

学校保健の件については、飛騨市コンベンション支援事業があるのでぜひ活用いただきたい。観光のPRは大いに連携させていただきたい。

委員Cからいただいた介護有識者人材バンクの件は、早速検討したい。施設実習の受入セールスに回ってみえる件は新鮮な意見として聞かせていただいた。実習フィールドと

して市内施設を使っていただくのは就職につながるという意味でも重要であり、深堀してみたい。何か形にできれば。

委員Dからはブロック塀に関する件で、塀以外に何かあるのではないかとのご意見をいただいた。全く同じ思いであり、同じような視点で町をもう一度見直してみたい。

委員Eからの外国人技能実習生については、政府が骨太の方針で緩和する流れになっており、現制度の充実化を図れるよう研究していく。事業承継については、移住者に店を任せるタイプの承継もあるのではと考えており、移住者の事業承継も視野に入れて検討する。

委員Fからご意見いただいた営農組合については、まさしく後継者がいない。マンパワーを考えつつ土地改良の方針を考えていきたい。

委員Gからいただいた森林環境譲与税の件は、実際の事業については森林組合にお願いしていかざるをえない。制度の仕組みや使い方含め、森林組合と相談させていただきながら一步一步進めていきたい。森林管理システムの件は、万全を期していきたい。

委員Hからの小さなまちづくり応援事業による初期以降の支援については、ふるさと納税型のクラウドファンディングなどの制度化などを考えてみたい。「〇〇が似合うまち」をつなげるというのは全く同感で、ひだプラスはまさしくそのために作ったところであり、活動の中で結び合わせられるよう検討していく。

委員Iからいただいた太江の道路改良の件は、路線を見直し、ほぼ話がまとまったが、用地買収などあるため5・6年はかかる。上気多への一本道の件は、市単独では難しく新設の補助はつかない。北陸電気工業の話は具体的話はない。他方で市が自由に使えるところではなく、過去には企業誘致の話もあったことからそういったことを含め合わせ検討していきたい。

i. club についてだが、吉城高校のYCKプロジェクトという取り組みは全国でも先進的であり、ぜひ内容にご注目いただきたい。地元就職に関しては、データで見ると帰ってきている人の人数は少しずつ増えてきている。あるアンケートでは、中学生のうちから半数以上は外に出たいと思っているが、郷土への愛着は非常に強いという結果が出ている。むしろ、30～50代で帰ってきたいという方が多く、その方達へ就職情報が届いていない、受入窓口が整備されてないということがテーマだと考えており、企業の発信力強化のセミナーを始めたところ。市でも社会人採用の年齢制限を撤廃したところ思わぬ人数の応募があった。就職形態の多様化を図ることが中間年代の獲得に繋がるという思いがある。

委員Jの住宅ローンの保証については、早速研究し実現していきたい。ヤナの後継者は色んな問題があるが、ご意見を聞きながら進めていきたい。

委員Kのお話だが、確かに日中の誰も居ない時の災害支援というのは、ご提案いただいた企業の支援も含めてよく考えてみたい。ひとり親の健康維持の支援も大事なテーマであり、検討項目に入れていきたい。

個別回答以外にも、全てよく考えさせていただき、盛り込めるものは盛り込んでいきたい。

【高木会長】ありがとうございました。市長が言われたとおり、専門分野はもちろんだが、様々な分野のご意見をいただき参考になることが多くあったのではと思う。これだけの方が一同に会し意見交換を行うことは、あまり無いので、ご自身の分野の参考にさせていただき、一緒に何かできるようなことが生まれるとよいと思う。私自身が勉強になったこともあり、事務局を通じていくつかアドバイスをしていきたいと考えている。

◎その他

今後のスケジュールについて《別紙3》

【土田係長より説明】

◎閉会【湯之下副市長】

長時間に渡り熱心にご審議いただき、貴重なご意見ご提言を賜り厚く御礼申し上げます。職員は今後、本日出席している各部長を中心とし、事業の進捗を図りながら皆様方からいただいた提言等について調査・勉強し来年度予算につなげていく。職員から皆様方にアドバイスを求めることがあるかもしれないが、ご意見を賜りたくお願い申し上げます。以上で第1回飛騨市総合政策審議会を閉じる。